

創基 151 年筑波大学開学 50 周年記念冠事業 令和 5 年度日韓青少年対話型交流事業 統合報告書

令和 6 年 3 月 13 日 発行
日韓みらいファクトリーアワード実行委員会
筑波大学日韓みらいファクトリーアワード運営事務局





ごあいさつ

令和5年度日韓青少年対話型交流事業 事業運営責任者の寶積 應公と申します。

2020年～2022年にかけて、新型コロナウイルス感染症により世の中では数々の国際交流行事が見送られました。同時に、当時メディアを中心に「最も厳しい日韓関係」といわれた中、日韓交流行事はその数を大きく減少させました。このような状況の改善を使命として立ち上がった私たちの初挑戦は、2022年に開催した「日韓高校生文化PRアワード 2022 Presented by 三養ジャパン」です。独立行政法人国際交流基金や駐横浜大韓民国総領事館などの後援の下、両国から20チーム、総勢32人の青少年が集まり成功裏に終了いたしました。そして2023年、「日韓高校生文化PRアワード」は筑波大学の創基151年開学50周年記念冠事業、公益財団法人日韓文化交流基金人物交流助成事業などの枠組み下、「日韓みらいファクトリーアワード2023」として再出発いたしました。

私たちはこれから、2030年を見据えて、本事業を中長期的に推進していきたいと考えております。本事業の原点である「日韓の未来を担うグローバル人材を育成し、両国交流の発展に貢献していく」という使命を胸に、私たちのあるべき姿を「境界を超えて皆で共に創る新しい日韓交流プラットフォーム」として宣言、実現のために弛まぬ努力を行ってまいります。筑波大学を拠点に、私たちだからできる資源を最大限活用し、両国の産官学様々なパートナーの皆様との連携を通じて、No.1日韓交流・教育プログラムへと躍進してまいります。

日韓みらいファクトリーアワードは、国際交流にとどまらないことが特徴です。学校教育における「総合的な学習（探究）の時間」でも注目されているアントレプレナーシップ教育を導入し、課題発見、解決方法の模索、提案までをワンストップで学ぶことができるプログラムを提供しています。また、本学教員による特別講義を取り入れるなど、高大接続型プログラムとしての役割も担っています。さらに、本プログラムのプラットフォームを活用して2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けた機運醸成へ参画、両国の観光促進に向けた取組みを通じて、両国の経済・観光交流の促進にも寄与してまいりたいと考えております。

私たちは、本事業を通じて日韓交流の発展に貢献し、両国民の皆さまから愛され「日韓のときめく未来」に最も近い存在となるとともに、平和と公正、パートナーシップの実現など、持続可能な社会の実現に向けて最善を尽くしてまいります。最後に、令和5年度事業に多大なるご支援を賜りました全ての関係者の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。引き続き、本事業へのご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

創基 151 年筑波大学開学 50 周年記念冠事業
令和 5 年度日韓青少年対話型交流事業
事業運営責任者 寶積 應公

CONTENTS

1. 事業概要	07
2. ビジョン・価値創造	09
3. プログラム	12
4. 成長戦略	20
5. サステナビリティ	25
6. ガバナンス	27

<編集指針>

本冊子は本事業・プログラムの成果や課題点、財務状況について報告し、統合的かつ簡潔にまとめることにより、本事業・プログラムの価値創造への取組みを幅広いステークホルダーの皆さまにお伝えし、より深い対話へとつなげるツールとすることを目指しています。報告対象期間は令和5年4月1日～令和6年3月31日です。最新状況や、時系列を追って記載をする必要とするものに関しては、対象期間以外の活動や取組み内容についても掲載しています。編集は主催者の指揮の下、主管事務局が制作を進めました。将来の見通しについては発行時点のものとなっておりますので予めご了承ください。

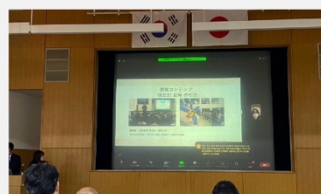
PHOTO



オンラインアクティビティの様子



最終発表会の様子①



最終発表会の様子②



最終発表会入場者配布セット



ポスター掲出の様子
(つくばエクスプレス線みらい平駅)



ポスター掲出の様子
(つくば市つくば駅前市民窓口センター)

CI



筑波大学
日韓青少年対話型交流事業
Japan-Korea Student Exchange Program

日韓が共に歩み、交流を発展していく様子をイメージしています。

2 事業概要

1 基本情報

- 名 称 創基 151 年筑波大学開学 50 周年記念冠事業
令和 5 年度日韓青少年対話型交流事業「日韓みらいファクトリーアワード 2023」
- 事業期間 令和 5 年 10 月 21 日～令和 5 年 12 月 23 日（全 7 回）
- 事業内容 日韓の中高生および大学生を対象とした探究型国際交流教育プログラム
- 場 所 オンライン、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
- 主 催 日韓みらいファクトリーアワード実行委員会
- 主 管 筑波大学日韓みらいファクトリーアワード運営事務局
- 所 管 国立大学法人筑波大学（学生生活課 T-ACT 推進室など）
- 協 賛 ヘテパシフィック株式会社、株式会社三養ジャパン
- 協 力 独立行政法人日本学生支援機構、韓国観光公社
- 後 援 つくば市、一般財団法人自治体国際化協会、江原特別自治道日本本部
株式会社 HANATOUR JAPAN、茨城県、日本政府観光局
一般社団法人日韓経済協会、済州観光公社、韓国国際交流財団、一般社団法人茗溪会
首都圏新都市鉄道株式会社、独立行政法人国立青少年教育振興機構
SNOW Japan 株式会社、独立行政法人国際交流基金
公益財団法人日韓文化交流基金
- 審査協力 東京韓国教育院、神奈川韓国総合教育院
- 周知協力 大阪韓国教育院、埼玉韓国教育院、在日本大韓民国民団、社団法人韓日協会
独立行政法人国際交流基金ソウル日本文化センター
独立行政法人日本学生支援機構ソウル日本留学情報センター
一般財団法人自治体国際化協会ソウル事務所
- 事業枠組み ・筑波大学創基 151 年開学 50 周年記念冠事業
・筑波大学人間力育成事業つくばアクションプロジェクト
- 助成枠組み ・公益財団法人日韓文化交流基金人物交流助成事業
・一般社団法人茗溪会令和 5 年度学生生活活動支援事業
- 担当教員 秋山 肇（人文社会系）、申 貞恩（人文社会系）、李 健實（T-ACT 推進室）
- 事業運営責任者 寶積 應公（社会・国際学群社会学類）

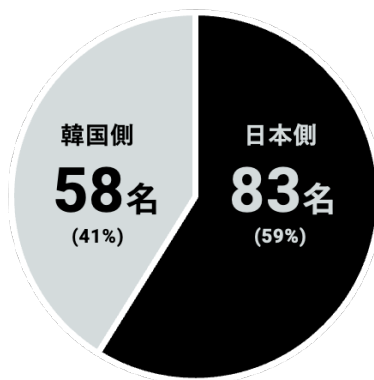
2 主催団体について（実行委員会）

氏名	所属	
寶積 應公	筑波大学	実行委員長

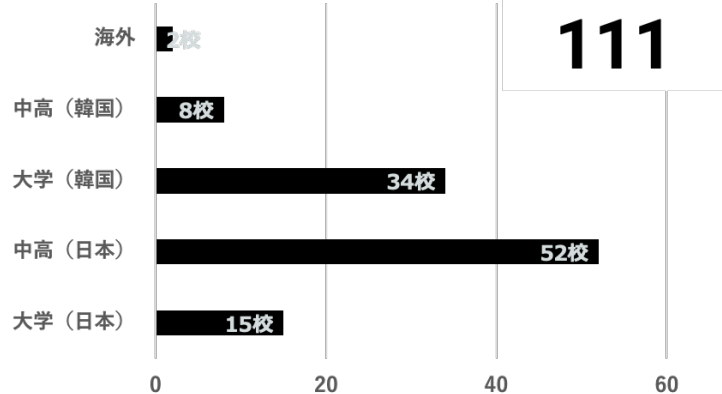
2 事業概要

■ 数字で見る実績

日本側学生と韓国側学生の割合



参加学生の分布



参加人数

参加学生, 大学生サポーター, 関係者等

201名

最終発表会視聴数

オンライン

639照会数

関係事業者

協賛/協力/後援 等

30事業者

事業予算規模

前年度比300%以上

363,300円

参加地域 (日本)

計

24/47都道府県

参加地域 (韓国)

計

16/17広域自治体

OUR BRAND

日韓みらいファクトリーアワードのコンセプトは、
「Join Together. 疎通で世界を変える。」です。

アワードは参加学生だけで成り立っているものではありません。
アワードは両国の様々な機関の人々が、その境界を超えて集まっています。
大人も青少年も、行政も民間も、みんなで共に参加する空間です。

そんな空間を最大限活用して、多様な人々と疎通してみましょう。
きっと、その疎通は、世界を「ちょっと」変えるはずです。

WHAT's “みらいファクトリー”

それは、「未来の創造拠点」です。本事業・プログラムは目指すのは学生たちだけではなく、世代や組織、国境といった様々な境界を超えて青少年も大人も、行政も民間も市民も、みんなで共に参加する空間です。事業者の皆様のご支援の下に完成する「みらいファクトリー」という空間を舞台に、学生たちは日韓の将来の「主人公」となって多様な人々と疎通します。きっと、その疎通は、世界を「ちょっと」変える原動力になると私たちは考えています。

3 ビジョン・価値創造

MISSION

日韓の未来を担うグローバル人材を育成し、両国交流の発展に貢献する。

VISION

境界を超えて皆で共に創る新しい日韓交流プラットフォーム。

VALUE

主体：主体的に思考し、行動する。

疎通：仲間と、社会と疎通する。

挑戦：限界を決めず、積極的に挑戦する。

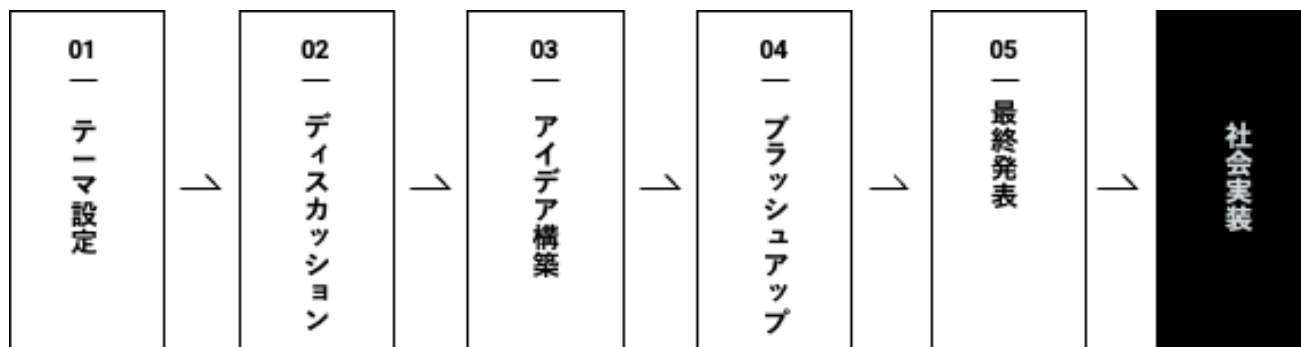
3 ビジョン・価値創造

教育的価値

■ 探究学習 × 国際交流

本プログラムは日韓の高校生から大学生を対象とした「探究型国際交流教育プログラム」です。先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態であると言われていた現代において、自らが物事を考える「主体」になると同時に、興味関心を持って、他者と共創し、社会の価値発見・創造することで未来を切り開いていかなければなりません。

私たちは日韓の青少年が価値観や目標を共有し、互いの文化を尊重しながら将来を見据えて共創し、持続可能な未来を築くためのインスピレーションを提供する舞台になりたいと考えております。プログラムのテーマは「日韓のときめく未来」であり、一見すると抽象的であります。しかし、日韓の若者が正解のない課題を発見した上で、方法を模索し提案するという学びのプロセスの中で、参加者一人一人が、「日韓のときめく未来」の中心、すなわち主人公となることができると確信しています。そしてさらに、日韓にとどまることなく、グローバルな社会を牽引する「主人公」になってほしいと期待しています。



■ 産官学 × 学生

本プログラムにおける活動の集大成としてアイデア発表を行いました。産官学様々な立場の方を審査委員としてお招きし参加学生と疎通していただきました。参加学生のアイデアについて、行政的側面、ビジネス的側面、そして学術的側面から評価していただくことで学生たちにとって密度の高いものとなりました。例えば、審査委員の一人である首都圏新都市鉄道株式会社の森高 龍平 部長は最終プレゼンテーションにおける評価について「理念と実現可能性の両輪で構想されたアイデアであるのか」に着目されたと話されておりました。

4 プログラムについて

概略・日程

Contents

日韓みらいファクトリーアワード2023は「日韓のときめく未来」をテーマに文化やコンテンツ・国際交流等の側面から対話を行い、アイデア・企画を構想することで、国や言葉の壁を越えた交流を図るプログラムを実施します。みらいファクトリーに参加する全ての参加者の方が「ときめく未来」の「主人公」です！

step 01	step 02	step 03	step 04
オリエンテーション	チーム別の議論、発表準備	有識者による特別講演	最終発表
日韓から、集まった参加者がみらいファクトリーに集まります。 自己紹介や簡単なアイスブレイクを通じて「ときめく未来」の「主人公」同士の交流をしよう。	チームごとに分かれて、それぞれどんな「日韓のときめく未来」について話し合ってみよう。 ときめく未来に一步近づけそうなアイデアや企画を考えよう。	日韓について研究されている方や、日韓で活躍されている方をお招きした特別講演を開催します。 講師の方のお話を通じて、チームの議論を加速させよう。	チームごとに作成したプレゼンテーション等を使って、オリジナルなアイデア・企画を発表しよう。 プログラム終了後に、アイデア・企画を実践してみるのも大歓迎！

プログラム内容は一部変更となる場合もございます。予めご了承ください。
日韓みらいファクトリーアワード実行委員会

日韓青少年対話型交流プログラム
2023 Japan-Korea
Future Factory Awards

「日韓みらいファクトリーアワード2023」は、単純な交流だけ、議論だけに終わらない「探究型国際交流教育プログラム」を提供いたしました。探究学習（総合的な学習の時間）の仕組みを導入し、「日韓のときめく未来」を活動の基本軸としつつも、参加する学生たちが主体的にテーマを考えて各自で課題を発見するというものです。チームやキャンプメンバーとの議論を通じて解決方法を模索し、プレゼンテーション形式の最終発表でその成果を発表されました。プログラムでは、実際に日韓を舞台に先導的に活躍する産官学の方を講師としてお招きし、特別講義をしていただきます。参加者は特別講演における学びや講師との対話を通じて自分たちのアイデアをブラッシュアップすることができる機会となりました。

日韓両国から153名の応募がありました。当初計画としては最大100名で準備をしておりましたが、応募学生が本プログラムに寄せる熱い志望動機に鑑み、選抜を取り止め153名全員の参加を決定いたしました。最終的には24チーム141名の学生が最終発表まで行い、参加率92%となりました。

<プログラム日程>

	日程	プログラム内容
第1回	10月21日（土）13:30~16:00	オリエンテーション、アイスブレイク
第2回	10月28日（土）13:30~16:00	チーム別活動
第3回	11月04日（土）13:30~16:00	チーム別活動
第4回	11月18日（土）13:30~16:00	チーム別活動
第5回	11月25日（土）13:30~16:00	第1回特別講演
第6回	12月09日（土）13:30~16:00	第2回特別講演
第7回	12月23日（土）13:30~17:00	最終発表会

4 プログラムについて

チーム別活動

本プログラムは最終発表会を除く全ての過程を完全オンラインで実施しました。オンラインで実施することの利点として、両国の学生が場所や時間を選ぶことなく、ウェブツールを活用して簡単に疎通することができるということが挙げられる。本プログラムでは、本学が導入しているオンライン会議システム Microsoft Teams 及び Zoom とオンラインコミュニケーションツール Discord の3つを活用して実施した。参加学生たちは特に Discord を活用して探究活動を進行していました。日本側参加者と韓国側参加者が混合で5名または6名のチームとなって活動しました。また、各チームには日韓両言語で疎通可能な大学生サポーターが1名つき、チーム活動に伴走しました。各チームの Discord 内には担当の大学生サポーター（後述）が配置され、参加学生たちの活動を支援しました。

チーム別活動の進捗状況や活用状況にはバラツキも認められましたが、いずれのチームにおいても Discord を上手に活用していたことが推察されます。運営側で提供しているツール以外を活用してチーム活動を進めているチームもありましたが、運営側としては個人情報取り扱い等の観点から推奨しておりませんでした。しかし「普段使い慣れたツールを活用したい」、「翻訳機能が搭載されていた方が活動をより活発にすることができた」などといった声も聞かれましたので、今後オンラインプログラムを実施する上で改善策を検討する必要があると考えております。

特別講演

全7回のプログラムのうち、2回にわたって特別講演を実施いたしました。

日本語での実施回では、タクトピア株式会社の長井 悠 代表取締役より「VUCA 時代の未来を切り拓くアントレプレナーシップ」というテーマでお話いただき、今回プログラムの核とも言える探究教育を提供いただきました。参加した学生たちは本講義を真剣に受けており、講演終了後の質疑応答では多くの学生が講師や学生同士と対話をしている様子が見受けられました。探究学習をはじめて経験した参加学生にとっても、探究活動の羅針盤とも言える本講演との出会いから、自分たちチームのアイデアをブラッシュアップしてより良いアイデアの提案に向けて論点を再検討する機会となったと評価することができると推察します。

韓国語での実施回では、本学の申 貞恩 助教（人文社会系）により「AI 時代、果たして外国語の学習は必要なのか」というテーマでご講演いただきました。本プログラムは言語能力を応募要件とせず、日韓交流に関心のあるすべての生徒・学生が参加しました。参加学生たちは、大学生サポーターによる通訳やウェブ上の翻訳サービスを活用して自由自在にコミュニケーションをとっている様子が見受けられました。しかし、このように技術革新が進んだ現代社会においても外国語学習はなぜ必要なのか、外国語学習は何に通じるのか、についてお話いただいたことで、学生たちは外国語学習へのモチベーションを向上させていました。

4 プログラムについて

特別講演

1 第1回特別講演（日本語回）



講師：長井 悠 共同創業者・代表取締役・ラーニングデザイナー
所属：タクトピア株式会社

<講師プロフィール>

茨城県と千葉県で育つ。東京大学にて藝術学（音楽社会学）を専攻、修士課程修了。IBM 社にて戦略コンサルタントとして活動後、2010 年にハバタク株式会社を創業。2015 年、当社の一部門であった学校向け教育事業をタクトピア株式会社としてスピンアウトし代表に就任。タクトピアでは全事業を統括し、学校・企業等の教育プレイヤーとの関係構築・協業可能性の開拓等をおこなう。バラバラになってしまっている教育（学ぶ）と産業（働く）を近づけ、誰もが自分の意志で生き方を選択できる成長の生態系を構築したい。

2 第2回特別講演（韓国語回）



講師：申 貞恩 助教
所属：国立大学法人筑波大学 人文社会系
(グローバルコミュニケーション教育センター)

<講師プロフィール>

筑波大学人文社会系研究科で学術博士号を取得後、筑波大学博士特別研究員(2018～2019)、東京福祉大学特任講師(2019～2020)、目白大学外国語学部専任講師(2020～2022)を歴任。研究分野は移動動詞、格助詞、二重目的語構文などで、第二言語習得の観点から日本語と韓国語を研究している。最近の出版物としては『パンデミック以後の韓国語教育の新しい挑戦と模索』(共著、KONG&PARK、2023)などがあり、現在は日本人韓国語学習者を対象とした初・中級向けの教材を執筆中。

4 プログラムについて

最終発表会

最終発表会は参加学生たちにとって活動の集大成の場となりました。参加学生たちはオンラインによる計4回のチーム別活動と計2回の特別講演を経て、「日韓のときめく未来：未来志向で持続可能な日韓交流」を基本テーマに、参加する日本側学生と韓国側学生が1つのチームとなって課題発見、実現方法の模索と提案を行いました。

最優秀賞には「日韓未来のためのフュージョンおやつ提案」が選ばれました。このアイデアは、日韓に共通するコンビニエンスストアにて両国の伝統的なお菓子である「みたらし団子」と「ホットク」を融合させたお菓子の販売が提案するというものでした。審査委員らは価格設定や商品のキャラクターデザインまでも工夫され具体性のある提案がとても印象的だと評価しました。授賞者の皆様には日韓航空券補助や協賛・協力企業からの商品が提供されました。

授賞発表一覧

	発表テーマ	授賞商品
最優秀賞	日韓みらいのためのフュージョンおやつ提案	表彰状（大学発行） 日韓便航空券補助 協賛・協力社提供商品
優秀賞	教育プログラムニュースレター、日韓のときめく未来へ	表彰状（大学発行） 協賛・協力社提供商品
奨励賞	日韓修学旅行ナビ	表彰状（大学発行） 協賛・協力社提供商品
人気賞	日本に가자! 한국에 이こう!	表彰状（大学発行）

<提供例 オリジナル賞状>



<提供例 商品>



4 プログラムについて

発表題目一覧



筑波大学
University of Tsukuba



創基 151年
50TH ANNIVERSARY OF
UNIVERSITY OF TSUKUBA

日韓青少年対話型交流プログラム
2023 Japan-Korea
Future Factory Awards
つくばアクションプロジェクト



令和5年度日韓青少年対話型交流事業

日韓みらいファクトリー アワード2023最終発表会

事前発表テーマ

1. 日韓のときめく未来を実現するためのアイデア
- 日韓の音楽から見るお互いの文化 -
2. 日韓プログラミングキャンプ
3. 日韓交流文化祭
4. 日韓ときめきツアー
5. 異文化体験を通して
6. 日韓修学旅行ナビ
7. 日韓姉妹校連携
8. 教育プログラムとニュースレター、日韓のときめく未来へ
9. 高校生交換留学生システム
10. 日韓未来のためのフュージョンおやつ提案
11. (聖地巡礼)旅行で作るときめく未来
12. 日韓のときめく未来
13. 日韓交流キャンプ
14. 日本と韓国のダンス交流会
15. 日韓未来サポーターズ -ときめく未来のための交流-
16. オンラインPlatformによる日韓青少年の言語学習モデルの構想
17. “今日は私が主人公”チャレンジ
18. 未来を考える日韓の防災文化
19. Team26
20. 日本にがさ! 韓国へ行こう!
21. 地域から始まる“お隣”との交流
22. メタバースと日韓の未来
23. 輝く未来に向けて
24. 校則にまつわる、韓国と日本が交流する企画・アイデア

コメント投稿

下記リンクから、コメントを書き込んでください!




投票 (一般)

あなたの推しアイデアに投票してください!



主催：日韓みらいファクトリーアワード実行委員会 主管：筑波大学日韓みらいファクトリーアワード運営事務局

本事業は創基151年筑波大学開学50周年記念冠事業、令和5年度若手会生生活支援助成事業、並びに公益財団法人日韓文化交流基金 人物交流助成事業です。












4 プログラムについて

審査について

最終発表会の審査は審査委員のみならず、これまで参加学生に伴走してきた大学生サポーターや、参加学生同士、市民の皆様（一般観覧者）の方と共に実施いたしました。本プログラムに参画する皆で評価し合うこの仕組みは、本プログラムのコンセプトとも通じるものであり、参加学生のみならず大学生サポーターのモチベーション向上につながり、大変効果的であったと推察されます。

<審査ポリシー>

種別	評価者	詳細項目
発表能力 28 点 (各 7 点 4 項目)	審査委員 参加学生 (1/7)	キーワード：伝達力、論理性、準備力 ・制限時間内に発表を終えましたか？ ・発表内容が一貫していましたか？ ・提示された資料がわかりやすく簡潔ですか？ ・プレゼンターの声の大きさと速度は適切ですか？
内容 42 点 (各 7 点 6 項目)	審査委員 参加者 (1/7)	キーワード：題目一致、斬新性、未来志向性、実現可能性、日韓融合性 ・日韓のときめく未来へつながったアイデアですか？ ・「ときめく未来」がしっかりと解釈されていますか？ ・発表内容の実現可能性は高いですか？ ・発表内容が明瞭で明確ですか？ ・発表内容が創意的ですか？ ・発表内容に説得力がありますか？
活動過程 20 点 (各 10 点 2 項目)	大学生サポーター	・チーム活動は積極的に行われていましたか？ ・メンバー間の疎通はよくできていましたか？ ・コメント（評価対象外）

<素点算出方法>

審査員 70 点（7 点 10 項目）、大学生サポーター 20 点（10 点 2 項目）
参加者 10 点（1/7 に圧縮、その他は審査員と同じ）、遅延は 2 点減点
合計 100 点

4 プログラムについて

審査について

<審査委員紹介> *敬称略

氏名	フリガナ	所属
加賀 信広	カガ ノブヒロ	筑波大学 人文社会系 教授
李 健實	イ ゴンシル	筑波大学 T-ACT 推進室 助教
申 貞恩	シン ジョンウン	筑波大学 人文社会系 助教
秋山 肇	アキヤマ ハジメ	筑波大学 人文社会系 助教
森高 龍平	モリタカ リュウヘイ	首都圏新都市鉄道株式会社 経営企画部長
長井 悠	ナガイ ユウ	タクトピア株式会社 代表取締役社長
河 光民	ハ ガンミン	駐日本国大韓民国大使館 東京韓国教育院 院長
裴 恩英	ペ ウンヨン	神奈川韓国総合教育院 院長

大学生サポーター制度について

参加学生が言語などの障壁を超えて円滑に疎通活動することができることを支援する大学生サポーター制度（無償インターン形式）を導入しました。日韓両言語で意思疎通ができることを条件に、日韓交流に関心がある、または経験の有する大学生・大学院生の方を両国から募集し、17名の学生の方に活動していただきました。大学生サポーターは参加学生たちが最終発表会に向けて円滑に準備ができるように通訳や進捗状況の確認などを通じて、参加者に一番近い場所でフォローアップを行いました。

活動証明書の交付について

プログラムを通じて、参加者同士の相互認識・理解と友好促進に貢献されたと認められた参加者に対して、主催者から本プログラムに参加したことを証明する活動証明書を交付しました。また、大学生サポーターズ、及び当日ボランティアの学生についても活動証明書を交付しました。活動証明書が参加いただいたすべての学生の方にとって、有意義なものとなることを期待しております。

<参加した大学生サポーターの声>

アイデア発案のサポートやオンラインでの議論のマネジメントには難しさも覚えましたが、参加者の皆様が作り上げていく企画を微力ながらも支えられたことにはやりがいを感じました。今後も国際交流の場を支える活動を続けてまいりたいと思います。

4 プログラムについて

開会式典

12月23日、最終発表会に先立ち「日韓みらいファクトリーアワード2023 開会式典」が開催されました。開会式典には本事業にご尽力いただいた関係者の皆様のご来賓を賜り、進行いたしました。開会式典は両国の国歌斉唱から始まり、本学の本間 三和子 教授（学生担当副学長）よりご挨拶をいただいた他、實積 應公 事業運営責任者より本事業の経過報告が行われました。

式典では、日韓議員連盟会長の菅 義偉 衆議院議員よりビデオメッセージを賜ったほか、駐日本国大韓民国大使館、株式会社三養ジャパン、首都圏新都市鉄道株式会社、在日本大韓民国民団茨城県地方本部などの関係者様からもご祝辞が寄せられました。



■前列（左から）*敬称略

金 侑貞（一般社団法人日韓経済協会 青少年交流センター長）、金 恵子（江原特別自治道日本本部 本部長）、
金 ヨンヒ（Korea 文化交流協会 代表）、孫 修珍（株式会社三養ジャパン マーケティングチーム 部長）、
今井 詩文（株式会社三養ジャパン マーケティングチーム マネージャー）、申 貞恩（筑波大学 人文社会系 助教）、
秋山 肇（筑波大学 人文社会系 助教）

■後列（左から）*敬称略

實積 應公（筑波大学 社会・国際学群社会学類、本事業運営責任者）、森高 龍平（首都圏新都市鉄道株式会社 経営企画部長）、
長 久光（公益財団法人日韓文化交流基金 事務局長）、加賀 信広（筑波大学 人文社会系 教授、T-ACT 推進室長）、
長井 悠（タクトピア株式会社 代表取締役社長）、李 健實（筑波大学 T-ACT 推進室 助教、本事業学内責任者）、
裴 恩英（神奈川韓国総合教育院 院長）、河 光民（駐日本国大韓民国大使館 東京韓国教育院 院長）

5 成長戦略

総合評価

本事業はその事業目的として「日韓の将来を担うグローバル人材を育成し、両国交流の発展に寄与する」と設定し事業を推進してまいりました。本目的を達成するためにプログラムを「境界を超えて皆が共に創る新しい日韓交流プラットフォーム」とするべく、探究型学習と国際交流の両観点を取り入れた探究型国際交流教育プログラムを提供しました。参加学生たちは、日本側、韓国側関係なしに一つのチームとなり、それぞれの課題意識に基づく対話と、解決・実現方法の模索、提案を行っており、当初目標は概ね達成することができたと評価することができます。また、最優秀賞を受賞した学生たちは、今後、相手国訪問を通じて、相手国を直に触れることが期待されます。今後、学生たちから出たアイデアを、産官学と連携し、実際に社会に実装していくための取り組みを行なっていきたいと考えております。

しかし、今年度事業を通じて①プログラムの質と②運営体制において課題点も見つかりました。

まず、①プログラムの質の観点から指摘できるのは参加学生の活動状況や積極性等に応じて、活動の質が変化してしまうということです。ウェブツールを活用した活動において、参加学生の動機づけ、積極的かつ主体的な活動を持続させなければならないと推察されます。チーム内におけるコミュニケーションを活発化され、参加学生が継続して主体的に活動に取組み、チームとして質の高い活動を展開していくためには、ウェブツールといった枠組みを提供するに留まらない働きかけが必要であると考察されます。例えば、大学生サポーターに対するバックアップ支援も高密度に行い、大学生サポーターと参加学生がより関わり合うことができることが望ましいと考えられます。

次に、②運営体制面においては早急に強化する必要があります。12月23日に行われた開会式典の開始時刻遅れやオンライン配信不備、最終発表会における進行支障は人員の不足による準備想定不足に起因するものであり、関係者の皆様にご迷惑をかけるに至ってしまいました。幸いにも、最終発表会における発表時間の短縮等により、すべての過程を実施することができたものの見直しが必要であります。

令和6年度事業では実施形態を対面へ変更し、探究教育、講義受講に加え、文化交流を導入することで、学生たちが総合的検知からより質の高い国際交流が実現できるように準備を進めてまいります。

<参加者の声>

(1) 日韓みらいファクトリーアワード2023に参加し、韓日両国の文化だけでなく、韓日関係について幅広く扱いながら勉強できる機会になりました。特に、私は韓国人として日本人学生と直接対話することが印象深かったです。その過程で自ら韓国の伝統文化について説明し、日本だけでなく、韓国についても振り返りながら成長することができました。

(2) この度は日韓みらいファクトリーのプログラムに参加させていただき、とても有益な経験になりました。まずは、日本と韓国の高校生から大学生まで幅広い人々と交流することができました。同じ目標を目指して様々な意見を交流することができ、様々なバックグラウンドを持っている人たちと、チームワークを通じて話し合い、お互いに対する理解を深められました。また、今後に対する日韓交流方法について、今現在お互いの国に興味のある人たちで考え、アイデアを可視化・顕在化し、意見をまとめ発表することができました。意見を交わし合い、アイデアをブラッシュアップし、みんなでより良い未来を構想することで、このプログラムの最終発表会を準備する期間がとても楽しい日々になりました。

5 成長戦略

広報活動

本年度は本学の創基151年と関連した広報戦略を打ち出し、前年度と比較し、その広報能力を飛躍的に向上させました。広報戦略として①国際交流や日韓交流に関心のある中高生、大学生、②探究教育、国際交流教育等に関心のある教員、一般関係者をターゲットとし、インターネットを活用した効果的なマーケティング・広報活動を行いました。日本側では国際交流や日韓交流の実施状況や、韓国語教育採択校、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）を対象とする全国200校以上の高等学校等へのチラシを配布いたしました。韓国側は、外国語高等学校や日本語や日本文化に関連する学部、学科を設置する大学を対象に校内電子掲示板などへの掲示を推進いたしました。また、政府機関に協力を依頼し政府機関のポータルサイトやSNSからの発信を強化しすることで、日韓交流等に関心を持つ層へ確実に届けられるように努力しました。そのほかにも、首都圏新都市鉄道（株）様のご支援で、つくばエクスプレス線全20駅へのA1サイズポスターの掲示を実施し、機運助成を図ってまいりました。

今後の重点課題としては①コンテンツ発信の強化と、②報道発表を通じたメディアへのアプローチが挙げられます。コンテンツ発信では、参加者やその保護者層のみならず、市民社会全体もターゲットとし事業コンセプトへの共感を得られるように工夫していく必要があります。報道発表についても同様であり、内輪で盛り上がるだけでなく、本事業・プログラムの存在・意義を社会に知らせ、インパクトを与えるとともに、両国民の皆様から広く賛同を得る必要があると考えています。また、韓国向けのブログを新たに開設し、韓国内での広報能力を一層引き上げます。具体的には下記の媒体を活用して積極的に広報してまいります。

種別	形式	媒体
自己発信	オンライン	筑波大学基幹ウェブサイト 筑波大学創基151年開学50周年記念冠事業ウェブサイト プログラムウェブサイト、事業ウェブサイト
自己発信	オンライン	note（ブログサイト）、Naver Blog（ブログサイト） SNS（X、Instagram）、一般公募展サイト、一般報道発表サイト
外部発信	オンライン	支援事業者様のウェブサイト、SNS、メールマガジン 【特に日本政府機関の韓国事務所を活用】
外部発信	オンライン オフライン	日韓交流取組みがある国立・私立大学担当部局への通知 高等学校への郵送での通知 *韓国の高校への電子メールでの通知は取り止め
外部発信	オフライン	公共交通機関の駅

5 成長戦略

報道実績

日時	機関名	記事タイトル URL
令和5年 9月26日	統一日報	韓日大学生の交流盛ん http://news.onekoreanews.net/detail.php?number=91720&thread=01r04
令和6年 1月24日	統一日報	韓日学生の対話型交流事業 http://news.onekoreanews.net/detail.php?number=92082&thread=01r04
令和6年 2月13日	筑波大学 新聞	若者が日韓交流でアイデア競う https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/pdf/381.pdf
令和6年 2月27日	筑波大学	日韓青少年対話型交流事業「日韓みらいファクトリーアワード2023」を開催 https://www.tsukuba.ac.jp/news/20240227153307.html (大学公式発表)

<統一日報 令和6年1月24日>

統一日報 (THE TONG-IL ILBO) [増刊] 2024年1月24日 (水曜日)

韓日学生の対話型交流事業 「未来」をテーマにプレゼン

昨年末、韓日両国に在る対話型交流事業「未来」をテーマにしたプレゼン大会が、筑波大学で開かれた。学生たちは、日韓間の交流促進や、持続可能な社会の実現に向けたアイデアを競い合った。

筑波大学の学生支援プログラムで実現したこの事業は、韓国政府の支援により、毎年開催されている。今年も、筑波大学と韓国の大学から、それぞれ10名ずつの学生が参加した。

大会は、筑波大学の学生支援センターで開かれた。参加者は、各自が準備したプレゼンテーションを、審査員の前で発表し、最終的に最優秀賞と優秀賞、そして各部門の最優秀賞が選ばれた。

最優秀賞を受賞したのは、筑波大学の学生である。その発表内容は、日韓間の交流促進に向けたアイデアを、具体的な数値やグラフを用いて示したものであった。

大会の司会を務めたのは、筑波大学の学長である。学長は、この事業が、日韓間の交流促進に大きく貢献していることを述べ、参加者たちに激励の言葉を述べた。

また、大会では、筑波大学の学生と韓国の学生との交流促進を図るための、様々な取り組みが紹介された。これには、学生交換プログラム、共同研究プロジェクト、そして、今回のような対話型交流事業などが含まれている。

筑波大学の学生支援センターの代表者は、この事業が、日韓間の交流促進に大きく貢献していることを述べ、参加者たちに激励の言葉を述べた。

また、大会では、筑波大学の学生と韓国の学生との交流促進を図るための、様々な取り組みが紹介された。これには、学生交換プログラム、共同研究プロジェクト、そして、今回のような対話型交流事業などが含まれている。

研修のため教師50人が訪日

韓国ハートナシップ基金を活用した研修プログラムの一環として、韓国から50名の教師が、筑波大学を訪れた。この研修は、筑波大学の学生と韓国の学生との交流促進を図るための、重要な取り組みの一つである。

研修プログラムは、筑波大学の学生と韓国の学生との交流促進を図るための、重要な取り組みの一つである。このプログラムでは、筑波大学の学生と韓国の学生との交流促進を図るための、様々な取り組みが紹介された。

また、研修プログラムでは、筑波大学の学生と韓国の学生との交流促進を図るための、様々な取り組みが紹介された。これには、学生交換プログラム、共同研究プロジェクト、そして、今回のような対話型交流事業などが含まれている。

*統一日報は特定の宗教団体と関係するものではありません。

5 成長戦略

資金調達 *別表参照

本年度事業は、公金と実行委員会準備金にて資金を調達いたしました。公益財団法人日韓文化交流基金の人物交流助成事業に採択いただいたほか、本学の同窓組織である一般社団法人茗溪会の令和5年度学生生活活動支援事業にも採択いただきました。最終決算報告では364,584円となり、前年の最終決算額の3倍以上となりました。今年度は大学規定により企業の皆様からの寄付は実施いたしませんでした。今後、オンラインでの開催から対面での開催に切り替えることを鑑み、資金調達能力を向上させる必要があります。大学同窓会組織や公益財団法人などからの公金助成に加えて、大学基金や韓国側公金からの資金投入に向けた検討を加速させます。また、大学規定の見直しにより、一般企業様からご寄付が受付可能となったことを受け、大学クラウドファンディングを活用した資金調達体制を整えてまいります。さらに、「みらいファクトリー」のコンセプトと関連し、若者の国際交流を応援したいと考える市民の皆様からのご寄付も頂戴したいと考えています。その際、寄付者の皆様が税金控除対象となることができるよう、大学関係部署と連携して調整を進めてまいります。

*ただし本学 T-ACT 推進室の規則により最終決算において収支差をゼロすることが義務付けられています。

運営体制の強化に向けて

本年度は、主管する事務局において常時対応にあたることのできる担当者が1名しかおらず、本事業・プログラムを推進するにあたり、非常に多くの困難を要するに至りました。令和6年度は事業規模に見合った人員を配置することで事業・プログラムの質の向上に努めてまいります。令和6年4月1日に、現在の事業・プログラム主管組織である筑波大学日韓みらいファクトリーアワード運営事務局を、筑波大学日韓青少年対話型交流事業事務局へと改組する予定です。そして事務局内に運営支援チーム、第1チーム（事業担当）、第2チーム（プログラム担当）を設置するとともに、新たに韓国事務所（ソウル、釜山の2拠点体制）を設け、日韓両国における包括的事業推進体制を整備いたします。

<改善案>

- *事業委員会代表者と事務局代表者は同一で、その名称を事業運営責任者とします。
- *事業委員会は筑波大学の構成員による合議制の組織とします。
- *事務局の定員はチーム長3名、以下チーム員を1名以上配置します。
- *主催者は本学で本事業を所管する本部組織である T-ACT 推進室、学生生活課、及び関連部局の管理・監督等指揮命令を受けるとともに、指導教員（学内責任者を含む）の指導を受けるものとする。
- *事業委員会、及び事務局の詳しい規則は実行委員会規則にて定める。【令和6年4月1日改正予定】

5 成長戦略

資金調達（別表）

<決算報告>

収 入		支 出		
摘 要	金 額	摘 要	金 額	詳 細
日韓文化交流基金 助成金 * (助成総額)	76,000	会場借用費	32,850	会場
			4,244	WiFi
			3,300	自動翻訳システム
		資料作成費	36,890	統合報告書印刷
一般社団法人茗溪会（助成金）	200,000	最優秀賞	25,010	日本側
実行委員会準備金	88,584		74,889	韓国側（3/8 最終換算）
		広告費	4,910	ドメイン・サーバー
			42,560	ウェブサイト
			10,000	ポスター制作
			4,670	ポスター印刷
			1,000	インタビュー謝礼
		開催費	41,960	昼食費
			3,312	飲料費
		通信費	43,180	日本
			2,257	韓国（2/28 時円換算）
		交通費	12,980	自動車
			2,012	ガソリン
			4,620	高速道路
			10,700	鉄道
		雑費	3,240	手土産、文具等
合 計 * (事業経費総額)	364,584	合 計 * (事業経費総額)	364,584	(単位/円)

5 成長戦略

2025 年大阪・関西万博との関連事項

私たちは、2025 年大阪・関西万博（以下「EXPO2025」）にかかわる取り組みを推進しております。

1 つ目は、EXPO2025 のコンセプトである「未来社会の実験場」と関連し「人々とのアイデア交換、未来社会を「共創」(co-create)」することができる空間としてのアワードの実現にも積極的に取り組んでおります。日韓みらいファクトリーアワードは日本と韓国がダイレクトにつながり、言語や国境といった壁を超えて、参加する日韓の学生たちが混合のチームとなり活動することができる仕掛けを提供しました。また、「日韓のときめく未来」といった正解のない課題を学生たちが主体的に発見し、議論・対話を行うことで参加学生がアイデアを交換し合い、共創することが期待されます。また、このような EXPO2025 のコンセプトの親和性のある「日韓みらいファクトリーアワード」事業の魅力を向上させ、より多くの国民の皆様にご理解いただけるよう、「TEAM EXPO2025」共創チャレンジへの申請も進めて、EXPO2025 へより多くコミットしていきたいと考えております。

2 つ目は、EXPO2025 の開催に向けた機運醸成への参画です。経済産業省博覧会室より媒体使用にかかわる許可を受け、12 月 23 日に開催された「日韓みらいファクトリーアワード 2023 最終発表会」の会場において、EXPO2025 の広報ポスターを掲出いたしました。加えて、オフライン・オンラインを問わず多くの観覧者様にご覧いただくことを目的とし、EXPO2025 のコンセプト映像などを放映し、日韓両国民の皆様へ EXPO2025 について幅広く広報いたしました。

次年度以降についても、弊事務局としましては、日韓からたくさんの若者が参加する「日韓みらいファクトリーアワード 2023」のプラットフォームを活用して、日韓両国民の若者世代を対象に EXPO2025 の開催に向けた機運醸成の取り組みを積極的に推進してまいります。

<EXPO2025 ポスター掲出の様子（会場前方 右）>



6 サステナビリティ

ESG、SDGs への取り組み

私たちは本事業・プログラムを通じて「SDGs 16：平和と公正を全ての人に」、及び「SDGs 17：パートナーシップで目標を達成しよう」にコミットすることを宣言します。

【ESG フレームワーク】

(1) Environment（環境）

人間と自然の調和のために努力します。例えば、リサイクル紙の利用など、事業運営にかかわる活動を「エコ」にしていきます。

(2) Social（社会）

社会的価値創出を最優先に考え、公益事業としての使命と自負心を持って、未来世代の人材育成に最善を尽くしてまいります。

(3) Governance（ガバナンス）

利害関係者様との公正な取引の実現、参加者様が安心して活動できるプログラムの実現に向けて、本学担当部局の指導の下、大学規則を遵守し事業運営規則を策定・運用します。



6 サステナビリティ

社会への貢献

1 2023 韓国語教師教育研究学術大会へ参加【令和5年11月17日～18日】

駐日韓国文化院と在日本ハングル学校関東協議会の共催で「2023 韓国語教師教育研究学術大会」及び「2023 ハングル学校実務者ワークショップ」が駐日韓国文化院庁舎（東京都新宿区）で開催されました。本行事は、日本国内の韓国語教育現況を把握し、韓国語教授法と教育コンテンツの研究成果を共有することを目的として開催されたものです。ハングル学校は、在日同胞韓国人や韓国語を学びたい日本人に対し活動を展開しています。韓国語教育に関する情報を共有し、教育関係者との人的ネットワークを築くことができるもので、ハングルの教育現場で活動されている多くの方が参加されました。

本学運営事務局としましては、日韓交流教育プログラムを推進するにあたり、在日同胞韓国人や韓国語を学びたい日本人に対し活動を展開しているハングル学校の特性はまさに、国際交流的意義を含意していると考えており、こうした皆様との意思疎通を加速させ、共に日韓交流事業を推進して参りたいと考えております。（写真下）

2 つくば市国際交流協会設立10周年記念式典に参加【令和6年3月3日】

つくば市民センター（茨城県つくば市）にて、一般財団法人つくば市国際交流協会の主催で、つくば市内で生活する外国人が文化や生活習慣の違いなどを基に、テーマについての意見を日本語で発表し、つくば市の皆さんとの相互理解や国際理解を深めることを目的とした「外国人による日本語スピーチ大会」が開催されました。本大会の開催に先立ち、同日、一般財団法人つくば市国際交流協会の設立10周年記念式典が開催されました。

本学運営事務局としては、今後とも、国際的な研究学園都市であるつくば市を拠点に、地域団体、政府機関、企業の皆様との連携を一層深化させ、本プログラムが日韓両国民の皆様にあれ「日韓のときめく未来」に最も近い存在となるよう最善を尽くしてまいります。



7 ガバナンス

公正な事業運営に向けた取り組み

私たちは、日本国法令、及び国立大学法人筑波大学の定める規則を順守することは勿論のこと、さらなる事業の透明性の強化に向けて各種規則を定め運用しております。令和6年度以降の運営体制の強化に伴い、公正な事業運営、公益性の向上に向けて更なる努力を行なってまいります。

(1) 情報の公開について

- ① 主管事務局を包括し主催者である事業委員会を管理・監督する国立大学法人は「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」（平成13年法律140号）の適用を受けます。同法に基づく開示請求が委員会に対してなされた場合には、同法に定める不開示情報を除き、提出された申請書類等は開示いたします。
- ② 参加申し込みをされ実際に活動に参加した場合、参加者の個人名及び所属学校名、写真、事業の概要等の情報は、主催者等の事業実績、ホームページ等において公表いたします。

(2) 内部通報窓口の設置について（利益相反・ハラスメント防止）

公益通報者保護法に基づき、国立大学法人筑波大学（担当部局：学生生活課 T-ACT 推進室）の管理監督下にある、主催者、及び主管者では、参加者の皆様は勿論、事業運営に関わっていただいている全ての方（事業者様を含む）に安心して参加・業務の推進を図ることを目的に、内部通報・相談窓口を令和5年12月8日より設置いたしました。活動内におけるハラスメント、事業全体に関連した利益相反マネジメント、及びコンプライアンス違反等について、問題が発見された場合はこの窓口を活用して速やかに通報いただきますようお願い申し上げます。本学関係者一同、本事業、及びプログラムにおいてハラスメントが決して発生することがないように、未然に防ぐための努力に最善を尽くして参ります。

【通報対応方針や関連資料はこちらを（<https://miraefactory.jp/declaration>）ご参照ください】

- (3) 事業委員会定款
- (4) 個人情報の取扱い
- (5) 利益相反等管理方針
- (6) 審査の透明性確保に関する指針
- (7) 参加規約
- (8) ソーシャルメディア運営方針
- (9) 国立大学法人筑波大学の定めるその他の規則

【上記の方針に関する詳細事項はこちらを（<https://miraefactory.jp/policy>）ご参照ください】



University of Tsukuba

1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki
305-8577 Japan

＜筑波大学について＞

1872年に日本で最初に設立された高等師範学校を起源とし、東京教育大学を経て、1973年に新構想大学として筑波研究学園都市に誕生しました。文部科学大臣認定の指定国立大学法人であり、スーパーグローバル大学事業のトップ型指定校です。2023年に創基151周年開学50周年を迎えました。2024年9月には日本の大学では初めて海外キャンパス（マレーシア校）を開設いたします。

創基151年 筑波大学 開学50周年 記念冠事業
令和5年度日韓青少年対話型交流事業 統合報告書

発行者：日韓 みらい ファクトリー アワード 実行委員会
編集者：筑波大学日韓みらいファクトリーアワード運営事務局
TEL：029-853-2222 E-mail：office_jkep@u.tsukuba.ac.jp
Web（事業サイト）：<https://miraefactory.jp/project>
〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1 第一エリア D 棟 3 階